

西南学院バプテスト資料室開室記念講演会

西南学院バプテスト資料室に 期待するもの

講師：東北学院院長・東北学院大学学長 大西 晴樹氏



みなさんこんばんは。東北学院の院長、東北学院大学の学長をしております大西晴樹と申します。よろしく願いいたします。前回、この種の講演会に呼ばれたことがあります。それは西南学院の資料室を立ち上げるという時に、当時、明治学院の資料室を作った経験があったものですから、その時のお話をさせていただきました。今回は、バプテスト資料室ということで、西南学院はさらにもう1歩、先に歩みを進めたという思いを強くしています。

はじめに

1. 教派・教団の資料室か？ 大学・神学部の資料室か？

まずはじめに、「バプテスト」というのは、大学の名前ではなくて、明らかにキリスト教の教派の名前です。教派教団の資料室が大学の神学部の資料室だということ、教派の資料室が大学が持つということのアドバンテージというものについて、考えてみたいと思います。

2. 自由教会制の陥穽

最近、こんな経験をしました。東北学院の宣教師の資料は、アメリカのペンシルヴァ

ニア州にあるランカスター神学校に所蔵されています。東北学院は、ペンシルヴェニア・ダッチといわれるアメリカに移住し、ドイツ語を母国語としたドイツ系移民のアメリカ・ドイツ改革教会の宣教師によって1886年に開かれた学校です。宮城学院とほぼ同時に開かれました。男子校と女子校ということで、仙台に2つの改革派立の学校が誕生したわけです。その資料が、どうやら雲行きが怪しいということになりまして、急遽アメリカに東北学院の資料センターから2人を派遣しまして、ちょっと様子を探ってくれということになりました。

どうということかと申しますと、ランカスター神学校が再洗礼派、敬虔派の流れを汲むモラビア教団のモラビアン大学に買収されたのです。プロテスタントの世界は自由教会制ですので、容赦なく教派立の学校の統廃合ということが起こります。現在、日本でも恵泉学園、神戸海星などで、大学の募集停止が始まっているわけでありまして、東北学院に来た宣教師の資料は、すべてランカスター神学校に所蔵されているので安心していましたが、ランカスター神学校から3年たったら改革派の資料を切り離すという約束をモラビアン大学と交わしたようなのです。これは大変だということで私どもは苦慮しました。どうやらミズーリ州にある改革派のイーデン神学校に移されるのではないだろうかということもいわれているのですが、どうもそこでもないらしい。一体どうなるのだろうかということで、今、宙に浮いた状態なのです。

ですから資料の保管は、きちんと責任をもって行わないと教派の歴史が抹殺されてしまうようなことに遭遇すると思います。とりわけ来日した改革派の宣教師たちは8ミリ・フィルムを通じて学校の歴史とか教会の歴史を記録しているので、そういったものがどこかに行ってしまうというのは、我々にとっては他人ごとではありませんので、引き続き注視していかなければならないと思っています。そんなことでバプテストの資料といえども、本当に心配なことが多いというのがプロテスタントの世界では日常茶飯事であるといっても間違いではないと思います。

第I部 東北学院史資料センター

さて西南学院になぜ私が呼ばれたのかと申しますと、アーキヴィストの宮川由衣さんが、東北学院の資料センターをご覧になった際に、これはモデルになるのではないかとということがあったのでしょうか。東北学院の資料センターについて注目したいということをおっしゃったことが発端だというふうに聞いておりますので、自己紹介がてら東北学院の資料センターについてお話ししたいと思います。

東北学院の歴史は、3人の創設者、「三校祖」といわれていますが、その3人が重要になります。まず、押川方義という横浜バンド出身の牧師が仙台に来ました。初め

は開港の地新潟で伝道していたのですが、新潟大火で焼け出されてしまいまして、東北地方なら仙台だということで、当時人口7万人の旧城下町に来て伝道を進めたことが発端です。その際、仙台においても学校を造りたいということで協力を仰いだのが、先ほど申し上げましたアメリカ・ドイツ改革教会のミッションボードで、この教派は、まだ宣教の拠点を日本に持ってなかったのが、仙台に宣教の拠点を置き、ウィリアム・ホーイ宣教師が来仙して、東北学院の前身である仙台神学校が1886年に始まりました。

その後50年にわたってデイヴィッド・シュネーダー宣教師が、東北学院の「中興の祖」ともいわれていますけども、今のような東北学院の発展の素地を作りました。これら3人を東北学院では「三校祖」と呼んでおります。

1. 東北学院の沿革

さて1886年、蒸気機関車鉄道が東京から塩釜まで延伸する1年前ですけれども、旧制二高よりも1年前にできたのが仙台神学校であります。改革派の神学校として誕生いたしました。その5年後に‘North Japan College’「東北学院」というキリスト教普通教育の学校に発展しました。これは、普通部（中等部）、高等部を設け、神学部のほかに、高等教育、中等教育を施す男子校として本格的に始まったということでもあります。

1949年、これはおそらく西南学院と同じではないかと思うのですが、新制大学になりまして、大学は文経学部を設けます。コロナ禍が明け、私が学長として着任して5年目に当たる今年の4月に、仙台都心に五橋新キャンパスを開設し、時代の要請・地域の課題を解決するための新学部を4つ設立しました。今、仙台の都心は新キャンパスの開設により大変な活況を呈しております。それまでは、泉や多賀城という郊外のキャンパスで学んでいた学生を、すべて土樋・五橋という都心のキャンパスに集約しました。学生は西南学院よりも多く、1万1千人おります。街中を歩くと遭遇する学生たちのほとんどが東北学院大学の学生ではないかといわれています。

そこで日本基督教会の神学部なのですが、ここは西南と違うところですが、押川方義という牧師は、日本最初のプロテスタント教会である日本基督公会、すなわち、現在の横浜海岸教会の最初の日本人会員であり、新潟ではエディンバラ医療宣教会の資金を仰いでいたので、海外の教派色はついてなかったのです。仙台においてアメリカ・ドイツ改革教会の協力を仰ぐことによって日本基督教会に属することになり、東北学院の神学部は日本基督教会の神学部の一つという位置づけになりました。これが1931年でしたでしょうか、日本神学校、現在の東京神学大学の前身と合同して、東北学院

には神学部のない状態が続きました。けれども、もとよりキリスト教の学校ですので、それではまずいということで、1964年に文学部キリスト教学科を開設しました。ただキリスト教と名がつくと、西南も同じ悩みを抱えていると思いますが、学生が来ないということで、なんとかならないかという理事会との議論が起り、現在は文学部総合人文学科という大きな名前がつけました。文学部より大きな学科名だねと冷やかしていますが、一学年60人の収容定員をキープしており、そこには、11人のキリスト教学担当の教員が所属しています。

キリスト教学の担当教員は全員、大学宗教主任として、今は2つのキャンパスに減りましたが、毎日の礼拝をしっかりと担当してくれています。そういう形でキリスト教の伝統を固く保持した学校であるということを申し上げたいと思います。

土樋キャンパスの中心にある建物は「本館」といまして、カレッジゴシック、時計台がテューダーゴシック調の塔なのですが、日本では東北学院と立教大学がこのようなテューダーゴシック調の建物を持っているということです。

礼拝堂の正式名称は長いのですが、「ラーハウザー記念東北学院礼拝堂」という建物です。これもカレッジゴシックの建物で、本館同様、建物の白亜の石は秋保（あきう）石といまして、秋保温泉から運んできた石を張り巡らしたしっかりした建物であり、大震災の折にもビクともしなかったということです。赤い扉の1階が資料センター、その上が礼拝堂ということになります。700人収容の礼拝堂です。

この度開学した五橋キャンパスには、1,000人収容の多目的ホールというのを設けました。1,000人収容で、地下鉄直結の街中のホールとしても利活用してもらおうということで、礼拝堂とは称さずに多目的ホールにしました。昨年寄付を募って泉の礼拝堂からパイプオルガンを移設し、礼拝もできるようにして、午前中の10時15分から45分まで、授業のない土曜日以外は毎日礼拝を続けております。

私が赴任して驚いたのは、東北学院が日本で一番礼拝出席者の多い大学ということで、コロナ禍の前ですが、年間延べ約8万人の学生がチャペルに出席したということです。2位はどこですかって聞きましたら福岡の西南学院で、約6万人の学生が出席しているということでした。都内の青山学院や明治学院では全く見られなくなった光景が、地方都市では見られるということでもあります。

2. 東北学院史資料センターについて

それで礼拝堂の1階に資料センターがありますが、これも辿っている足跡は、西南学院とほぼ一緒で、百年史の編纂で集まった資料をどうするかということで、東北学院の資料室が発足しました。ただ、専任の職員が配置されておらず、ずいぶん軽視さ

れていたようですが、2014年に「東北学院史資料センター」に改組しましたが、位置づけとしては法人広報部の資料室ということで、独立した組織ではありませんでした。

ただ、この資料センターは「年報」を出版しておりまして、これが大変立派な「年報」、今、回覧に付しますのでご覧いただきたいのですが、グラビアで贅沢なつくりしており、非常に内容の濃いものを出版しております。

そこで私が院長に就任してから位置づけを変えまして、法人の庶務部庶務課に位置づけてもらいました。やはり院長のもとで宗教部と資料センターというのは、建学の精神を体現する両輪であり、これらをきちんと残さないといけないものとして位置づけしてもらいました。そして念願の専任の職員を2023年から配置してもらい、現在は、課長補佐が1人、そして任期付き職員数名という陣容であります。どうしてスタッフ強化が認められたのかと申しますと、2036年の創立150周年が近づいてきていますので、150年史の編纂に着手しなければならないからです。2022年に「百五十年史」編纂委員会が発足し、2024年には編纂室が立ち上がる予定です。いよいよ来年から150年に向けて編纂事業が始まるということになります。

3. 東北学院史資料センターの運営と役割

東北学院の資料センターは、院長のもとにもに大学教員からなる13人の調査委員による総会が組織され、そこから5、6人の運営委員が選ばれるという形で運営されております。おもな業務は「年報」の発行です。建学の精神に関連する資料の蒐集、常設展示、特別展示と見学者への案内、講演会の開催、メディア等問い合わせへの対応、歴史的建造物ガイドの作成、おそらく西南学院の資料室と同じ仕事だと思っておりますが、これらを進めています。

4. 保存されている教会資料

東北学院で所蔵している資料ですが、担当の職員に聞いたところ、東北学院では次のような教派資料を所蔵しているということでした。日本基督教会の「宮城中会」、「東北中会」それから「東北教会時報」、「両羽の光」。「両羽」というのは、羽前羽後のことで、秋田県と山形県を中心とした牧師たちの資料ということになります。それから「神と人」、その後継の雑誌。それから *Messenger of the Evangelical and Reformed Church*、*Outlook of Mission : Reformed Church in the US* というアメリカの教派関係の雑誌があります。

先ほどの最初の横浜バンド出身の押川方義牧師の資料とその家族の資料。賀川豊彦

と一緒に日本の農民運動、労働運動、特に農民運動などに従事した人物で、杉山元治郎という神学部の卒業生の資料を所蔵しています。

第Ⅱ部 資料センターの働き

1. D.B. シュネーダー「基督教教育総合方針」(1917)

それで東北学院に赴任するときに、どうしても気になることがありました。それは東北学院「中興の祖」とよばれるシュネーダー先生のこの文書なのです。1917年「基督教教育総合方針」は、大正デモクラシーの時に作られた文書です。キリスト教学校教育同盟の前身である基督教教育同盟会は、世界的レベルのキリスト教大学を日本において設立するという幻を立てていたのですが、これが潰れました。挫折後、基督教教育同盟会はどのようにしてまた共通の目標を掲げたかという、シュネーダー先生が書いたこの文書によって再出発した。そのような歴史的な文書です。

これを読みますと、「我々の中心的な目標は政府の教育を補完することによって国に役立つのを一義的とはしない。すなわち、大規模に成功した強力で有力なキリスト教学校を立ち上げることではない。またキリスト教の改宗者を得ることもない」と。宣教師がこんなこと言っているのです。また、「我々の中心的な目的と目標は確かな人物 ‘a certain type of men’ を作りあげることでなければならないと信じる。どんなタイプの人間を育てようとするべきなのだろうか。われわれの教育政策全体のもっとも重要な問題であるように思われる」と基督教教育同盟会の総会で発表し、同盟会の教育方針として採択されたのです。

私はこの文書が気になっておりました。東北学院の院長がこういうことを言っているけれども、果たしてどんな背景があるのだろうかといろいろ想像して東北学院に赴任しました。さらにこの文書は、こう続きます。「消極的に言うならば風潮に流されたり、人間に与えられた環境に素直に服従したりしない人間になるべきだ」。尖った人間でいいということなのです。「積極的に言うならば、自らの目的のために真理を考えたり愛したりする人で、その知識は消化されており、記憶された事実も単なる集合体であるよりも現実的なものである」と。アメリカのプラグマティズムの良識的な部分を含んだ対応なのかなと考えたりしていました。

2. 高橋潔・大曾根源助

それで、こんなことを言う院長の学校には、どんな卒業生がいるのだろうかと気にしていたところ、昨年12月に東北学院の資料センター主催で「公開学術講演会」という行事がありました。これはシュネーダー先生の弟子である高橋潔、大曾根源助に

ついて発表するという講演会でした。

3. 大阪府立中央聴覚支援学校「120年史」

実は昨年11月に大阪女学院で教育同盟の学校代表者協議会があったものですから、会場近くにある大阪府立中央聴覚支援学校を訪問しました。たまたま土曜日でしたが、教頭先生に話を伺うことができました。その際教頭先生から「支援学校の120年史に東北学院の記載があるのでぜひご覧ください」ということで同校の『120年史』をいただきましたが、この写真の中に東北学院の卒業生が5人ぐらい写っていて、聾唖の教職員と健常者の教職員が仲良く一緒にあって懇談している写真が掲載されていました。

当時の大阪聾唖学校では、どうしてこんなふうに聾唖の教職員も健常者の教職員もお互い和気あいあいとしていたのかといいますと、実はこの頃、口話法、すなわち、人の口の開き方を見て、聾唖の人に言葉を喋らせようという教育方法が全国的に強制されていました。口話法の方が高度で科学的であり、手話法は教えるに値しないという考え方だったのです。そうすると、口話法ができない聾唖の教職員が教育現場から淘汰されていきました。それに対して、人間のコミュニケーションとは、いったい何だろうということから、手話を使い続けた全国で唯一の聾唖学校が大阪の聾唖学校だったということです。

それを主張し続けていたのが、先ほどのシュネーダー先生のお弟子さんたちだったのです。東北学院からは総計10人、杉山元治郎の紹介で仙台から大阪聾唖学校に赴任して教員になりました。高橋潔、大曾根源助の2人が校長になりましたけれど、東北学院の卒業生たちが手話での教育を貫いたということです。もちろん口話の教育も認めています。しかしながら人間には適性がある。それを無理して手話に統一する必要はない。口話ができる人は口話でいいし、手話ができる人は手話を使ったらいいと。それぞれがコミュニケーションすることが大切なのだと主張して、多様なあり方、または適性を認めたやり方、そういった教育に徹したということがこの学校の特色でした。

当時の文部大臣鳩山一郎は口話教育での統一を宣言しましたから、当然、目を付けられて、高橋潔がこれに反対した時には大変なブーイングを浴びたのですけれども、最後まで貫いています。戦後は、手話の時代になっていますが、この卒業生たちは先見の明があったということになります。

4. 公開学術講演会から学んだこと

そもそも高橋潔という人は、仏教系の東北中学、今の東北高校の出身ですけれども、東北学院の専門部に入って音楽に目覚めました。音楽をやりたい、音楽で留学したいということで、シュネーダー先生のところに相談に行ったそうです。そしたら「ボーイ、あなたは音楽で留学しない方がいい。それよりも幸せの薄い人たちのために働きなさい」という言葉に従って大阪に行ったということです。音楽という自分の好きなところから、最も疎外された聾啞の人々のところに飛び込んで、手話教育を貫いたというのが高橋潔のあり方だったということになります。

それでこの高橋潔ともう一人の大會根源助という人も校長でしたが、大會根は指で話す方法というか、指で形を作ってコミュニケーションをとりました。こういった人たちの功績というのは、むしろ現代の支援学校の人たちの方がよく覚えていて、公開学術講演会当日、大阪から講師が来仙するということで宮城県の支援学校の人たちもずいぶんと東北学院にやってきました。そのような公開学術講演会でしたので、通訳は手話、タイプによるモニター上の字幕、それから指話という3通りの方法を駆使しながら、進行しました。これは、手話を通してキリスト教の教えを実践した卒業生たちがいたということで、改めてシュネーダー先生の偉大さ、その足跡に私自身も触れることができ、大変有意義な機会を持つことができました。

5. 宗教・適性・多様性の共存

宗教から生まれてくる適性、多様性が大きな役割を果たしているということです。高橋潔の奥さんは、仏教の布教師で、醜（しゅう）という名前の本願寺派の人でした。どうしてこの夫婦が結婚しているのかと言いますと、むしろ高橋潔と結婚することで、高橋の事業を支援したいということです。当時の大阪聾啞学校は日本基督教会の大阪の天王寺教会で手話部を作ったり、あるいは仏教寺院と接触を持ったりしながら資金を仰ぐという目的で、教会学校運動にも参加しました。日本基督教会の天王寺教会土曜学校は、やがて大阪聾啞基督教会となり、超教派の手話伝道に発展していきました。

東北学院土樋キャンパスの図書館はシュネーダー記念図書館という名称なのですが、いつしか中央図書館という名前が親しまれ、シュネーダー先生の名前が消えていたものですから、五橋キャンパスの高層棟はシュネーダー記念館という名前にしまして、シュネーダー先生の名前が残るようにしました。

ホーイ記念館というのはすでに土樋のキャンパスにあります。東北大から買い取った土地にガラス張りの21世紀建築が建っています。それから五橋キャンパスの多目的ホールがある建物は、押川記念館と命名しました。「三校祖」の名前はすべて、キャ

ンパスの建物に刻まれています。

6. 鈴木義男（1894 - 1963）研究

さて、また一つ大きな発見がありました。それは鈴木義男という人物です。この人に関しても、ほとんどの方はあまり知らないのではないかと思います。日本国憲法に「平和」という文字を入れたのは誰だろう。マッカーサーなのか、幣原なのか、あるいは進駐軍のクエーカー教徒なのか、これまでは謎でありました。ところが1995年に芦田内閣の憲法小委員会の発言録が公開された結果、GHQ 草案にはなかった「平和」という言葉を憲法第9条に刻んだのは日本人の鈴木義男であったことが明らかになってきたのです。

さてこの鈴木義男という人物ですが、福島県の白河の関で有名な白河町の生まれで、父親はメソジスト教会の牧師でした。父親がシュネーダー先生と知り合いであったために、福島県の中学校には行かないで、仙台の私立東北学院に進学したのでした。鈴木義男は東北学院普通部で5年間学んで、旧制二高を経て東京大学の法科に進むわけです。そして30歳で東北帝大の教授として仙台に戻ってきますが、軍事教練に反対して大学から追放されます。

鈴木は、法政大学や東京女子大学で教え、弁護士として活躍します。弁護士としては、治安維持法の下で権力により思想・信条・言論・良心の自由に対する迫害によって逮捕された人々のために働きます。誰を弁護したのかというと、例えば、韓国の文学者である李光洙（イ・ゲンス）、プロレタリア文学の宮本百合子、マルクス経済学者の河上肇、宇野弘蔵、統計学者の有沢広巳、朝鮮独立運動家、ホーリネスの牧師等々です。戦後は福島県を基盤とする社会党右派の国会議員として活躍しましたが、音読みで「ギダンさん」という愛称で選挙民に親しまれ、片山内閣の時の法務大臣などを経験した人物です。

7. 日本国憲法に対する鈴木功績

鈴木は第9条の「平和」という言葉以外にも、日本国憲法に対して多くの功績を残しました。

憲法第25条、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」。いわゆる生存権の文章を憲法に盛り込んだのも鈴木義男です。これまでは、生存権は森戸辰雄の発案と理解されてきましたが、発言録を読むとどうやら鈴木の方が生存権について発言しています。

鈴木は、ドイツに留学した折に生存権というものを東北帝大の教授になる前に研究

してきていますので、これを生かしたということです。日本国憲法の中には、他にも鈴木が発案が盛り込まれています。すなわち、司法の独立、政府や自治体の不法行為に歯止めをかけた国家賠償請求権、えん罪など、弱者の立場に立った刑事補償請求権などです。鈴木義男の功績というのは最近NHKの教育テレビでも取り上げられ、脚光を浴びるようになりました。

8. 資料センター主催の講演会からの成果物

シュネーダー先生から、鈴木は将来牧師か教師になるようにと勧められたのですが、彼は政治家になりたいと言って、東大に進んで大学教授の道を選びました。これは、鈴木信仰にとって象徴的な事件ですが、志賀暁子という女優の墮胎事件を弁護した折に、彼はヨハネによる福音書の8章7節「罪を犯したことの無い者が、この女に石を投げなさい」を引用して弁護しました。その時の検事は戦後「英霊にこたえる会」の会長となる井本台吉でありまして、若い時にこの2人は、弁護士と検事として衝突していたのです。井本は、女性に責任があるということで、この女優の責任を追及したそうですけれども、鈴木は、これは男女の責任であるということで、そのような一方的な追及をするなど述べて志賀暁子を擁護しました。

9. 第74回キリスト教史学会大会東北学院大会予告

資料センターは2015年から2018年まで、4年間続けて鈴木義男を取り上げ続けました。そのせいもあって、学内の教授たちが鈴木義男研究に目覚めて、東北学院出身の仁昌寺正一名誉教授が、自分の先輩にあたるということもあって、ついに鈴木に関する著作を出版しました。『平和憲法をつくった男—鈴木義男』という立派な本です。実はこの著作が出たので、9月16日に、東北学院大学の新しいキャンパスにおいてキリスト教史学会の大会が開かれる予定であり、「鈴木義男シンポジウム」を開催しようと現在、計画中であります。基調講演者は、先ほどの鈴木義男について執筆した仁昌寺先生。それからコメンテーターとしては鈴木の子孫である油井大三郎東京大学・一橋大学名誉教授です。

ほかに2人の発題者がいます。一人は松谷基和東北学院大学国際学部教授。松谷教授は資料センター「年報」最新号において、鈴木義男はどうして朝鮮の独立運動家を弁護するようになったのか、という論文を書いています。松谷教授は、青山学院大学の雨宮剛教授が中心になって出版した『青山学院と平和へのメッセージ：史的検証と未来展望』（1995）という戦争責任に関する書籍のなかの一人の朝鮮人留学生の文章から、東北学院に留学した別の朝鮮人学生の存在を知り、その留学生が東北学院普通

部から鈴木と同じように旧制二高に進み、東北帝大で鈴木に教わり、弁護士の勉強をするために鈴木の仕事所で働いたことを発見しました。彼を通じて、鈴木は朝鮮独立運動家の弁護をするようになったのです。私にとっては目から鱗でしたけれども、非常に興味深い発見です。

明治学院で『心に刻む－敗戦50年・明治学院の自己検証』という小冊子を作った時に、私も韓国に行って、戦前戦中に明治学院を卒業した韓国の留学生たちを取材しました。その頃、青山学院では両宮教授が戦争責任に関する本を出版したのです。その成果がようやく今実を結んで来ているのかなと思うと、感無量です。それから雲然（くもしかり）祥子先生という、仁昌寺先生の教え子で東北学院の卒業生が発題します。岩手県立大学は宮古市に短期大学部を開設していますが、そこの専任講師の雲然先生には、宮城県出身で、旧制二高、東京大学で鈴木先輩で、恩師でもある吉野作造について発表してもらいます。ぜひ今年の夏はキリスト教史学会にも顔を出していただければと思います。



第Ⅲ部 イギリスの具体例

以上、東北学院の資料センターの歩みを理解していただけたのではないかと思います。実は、イギリスに2年間ほどバプテストの神学校で過ごした経験がありますので、その神学校と資料センターの話をしたと思います。

1. Centre for Baptist Studies in Oxford

Centre for Baptist Studies in Oxfordというセンターです。このセンターは現在、オックスフォード大学にあるバプテストの神学校リージェンツ・パーク・コレジ（以下、「リージェンツ」と略記）が運営しています。今から30年以上も前のことで恐縮ですが、私が在学研究で1991年と92年にリージェンツで過ごした時、気鋭の神学者

であり、現在は非国教徒ながらオックスフォード大学の著名教授をされているポール・フィデスという若い学寮長がおりました。「日本人のバプテスト」というと、珍しいと歓迎してくれたのですが、当時、リージェンツは学生 80 人くらいの本当に小さなコレジでした。世俗の学問にも開かれていたのですが、神学以外に何か売り物はないのですかと逆に聞きたくなるくらいの神学校だったのです。

社会経済史を専門としている私の目標は、もちろん神学ではなくて、世俗の方からのアプローチですので、リージェンツ滞在の目的はコレジが所蔵しているアンガスライブラリーを利用することでした。そこには、世界から蒐集された 7 万点の資料が所蔵されており、バプテスト史に関心のある私にとってはまさに「宝の山」でした。アングリカンの大学であるオックスフォード大学にバプテストのような非国教徒の神学校があるというのは、非常に不思議なことなので、まずそこから説明したいと思います。リージェンツは、40 近くある大学のコレジの 1 つですが、ステイタスは「フルコレジ」ではありません。正式には「プライベート・ホール」です。何が違うかというとアングリカンのコレジが 30 以上あるのですが、それら以外にユニテリアン、カトリック、バプテスト、それから改革派のコレジがあり、これら非国教徒のコレジは「プライベート・ホール」という位置づけでした。

コレジのリージェンツ・パークという名前はロンドンにある公園の地名に由来します。なぜリージェンツ・パーク・コレジがオックスフォードにあるかということ、19 世紀に非国教徒が大学を作ることは認められていなかったからです。

当時大学といえばすべてオックスブリッジをはじめとしたアングリカンの学校で、非国教徒の大学として最初にできたのはロンドン大学ユニヴァーシティ・カレッジですから、それまで非国教徒はアカデミーという専門学校を経営しておりました。リージェンツの沿革を辿ると、ロンドンのステップニー地区にあるアカデミーとして 1810 年に設立されました。19 世紀半ばにロンドンの大学の一部となりました。神学校ですから学位を授ける時に専門学校であるアカデミーでは無理ということで、ロンドン大学と協定して、ロンドン大学の神学博士号の学位を授けたということです。ステップニーのアカデミーはリージェンツ・パークに移転して、リージェンツと称したのですが、非国教徒を公職から排除する審査律が廃止され、20 世紀の初めにオックスフォードの方が学ぶ環境が整っているというので移転し、現在に至っております。本当に小さなコレジでしたが、現在は 200 人の学生を擁しております。次第に神学生以外の学生も受け入れるようになり、神学生以外におもに人文社会科学を学ぶ 100 人程度の学生、それから 50 人の院生、20 人の留学生で構成され、通常 500 人を越える学生からなる他のフルコレジと比べれば、小規模なコレジとして存続しています。

2. Angus Library and Archive

リージェンツの地下にあるアンガスライブラリーに行ったら、右手に閲覧室があり、スーザン・ミルズさんという図書館司書から小さなキャレルをもらいまして、ワードプロセッサーを持ち込んで、左手にある書庫から出されてくる資料を一生懸命に読み込みます。まだ90年代初頭ですから、いわゆるワープロにはメモリの機能はありませんが、ネットにはつながっていません。

書庫にはまず入れてくれません。司書が資料を出してくるだけです。しかも手袋をして運んでくるので、大層貴重なものを机の上に置いてくれますから、外部からは閉ざされたようなライブラリーでした。19世紀にリージェンツの校長であったアンガスに由来していて命名されており、当時からイギリスバプテスト同盟 (Baptist Union of Great Britain)、バプテスト歴史協会 (Baptist Historical Society)、バプテスト宣教会 (Baptist Missionary Society) と連携していました。歴史研究中心の地味な、文字通り「図書室」であり、地下に埋もれたような存在でした。

3. Centre for Baptist Studies の目的

ところがです。何十年か経って、急にこのオックスフォード大学のバプテスト神学校が目覚めました。私のリージェンツ滞在中にも、フィデイス学寮長は、経済的に台頭した日本の大学と連携したいということで、明治学院大学との連携も模索し、国際交流担当副学長もオックスフォードを訪問したのですが、学費のことや、一般学生を受け入れるのも大変だということで、日の目を見ませんでした。その後、リージェンツは Centre for Baptist Studies (以下、CBS と略記) というのを作りました。これがバプテスト史と神学の研究に活気を与えまして、今日のバプテスト教会の生活と主張を研究と絡める目的で設立された機関、センターとして立ち上がりました。この動きは結果的に、アンガスライブラリーに所蔵されている資料を掘り起こすことになります。

サバティカル休暇、これは牧師であれ、研究者であれ、牧会や研究に活力を与えるために必要な休暇ですが、リージェンツはサバティカル休暇をすごす場所としては最適な環境を保持しています。オックスフォードには、世界から学者や牧師が集まってきますので、サバティカルの時はここに籍を置かせてもらって仕事をするのです。私は今でもリージェンツに時々お世話になりますが、夏休み期間中に滞在しても、オックスフォード大学でのメール・アドレスをもらえますし、手続きをすれば、オックスフォード大学のすべての図書館も利用できますので、研究するなら絶対リージェンツがいいと思います。そのようなオックスフォード大学のアドバンテージを利用して、CBS は世界的なセンターへと発展を遂げました。

4. 目的達成のための方策

CBS は、その目的を達成するための方策としてこういうことを言っています。「関連領域の学位取得を目的とする研究者にコレジの構成員資格を付与する」。神学だけでなく関連領域も OK です。私のような社会経済史を研究している人間にとっても使えるということになります。サバティカルの訪問研究員に研究設備、宿泊設備を提供してくれます。夏季休暇で訪れると、学生寮のようなところに泊まることがあります。カトリックのコレジの神学寮に寝泊まりしたこともあります。

国際的な重要なテーマについての講演やセミナーの開催、学問的な書物の公刊もしております。これは半端じゃありません。セミナーは年何回くらいでしょうか、私にも頻繁にメールを送ってくるのですが、忙しくて参加できませんが、送ってきます。また CBS 刊行書籍もアマゾンで検索してもらえると分かるのですが、オックスフォード・ユニヴァーシティ・プレスじゃないのです。リージェンツ・パーク・コレジ出版の資料集や研究書が山のように 100 冊も 200 冊も出版され、アマゾンでも入手できるのです。かつてバプテスト歴史協会刊行の学術誌 *Baptist Quarterly* に論文を掲載することが、バプテスト教会史家の目的だったのですが、論文を掲載する頻度で書籍を出版するのですから、これはとてもすごいことです。どこでこの出版費用を捻出するのか、不思議でなりません。おそらく大学のメリットを使って出版費用を工面しているのだと思いますけども、書籍を精力的に出版しています。そして、地域の教会に歴史を記録すること、資料を保管することを奨励しています。

5. 著名な運営委員

CBS の運営委員ですが、世界的な研究者であるジョン・コフィというピューリタン研究の第一人者。ミカエル・ヘイキン。この方は南部バプテスト神学校の教会史家で、アンドリュー・フラーセンターの代表を兼任しています。ダニエル・プラットという近代奴隷制のネットワークである NPO の代表者。それから女性史研究者が入っており、ヤーネルというサウスウェスタン・バプテスト神学校の教会史家も入っています。

6. 旺盛な出版・広報展開

刊行される書籍には、リージェンツの紋章が必ず印刷されています。これを 100 冊以上リージェンツから出版しております。なかには、アンガスライブラリーが所蔵しているジョン・パニヤンの『天路歷程』の原本に掲載されている版画をブックカバーとして利用した本を出版しています。アマゾンで検索したところ、CBS の刊行物が 46 点買えます。

またネットでCBSを検索してもらいたいのですが、YouTubeで発信しSNSにアップしているものも多数見受けられます。どうして活況を呈しているのか私も不思議ではないのですが、出版物もGeneral SeriesからCollege Partnership Seriesとか、Re-Sourcingという資料集の復刻とか、Occasional Papers, Supplementary Volumesという若い研究者の支援まで、あらゆるジャンルの研究書、論文の出版、こういったものを出しています。

第Ⅳ部 CBSの成果物：私の場合

1. William Kiffin or Kiffen (c1616-1701)

さてCBSからの成果物を利用して、私は、ウィリアム・キッフィンについてはなんとかまとめることができました。リージェンツのシニア・コモンルームには、バプテストの初期の指導者ウィリアム・キッフィンの肖像画が飾ってあります。ティーを飲みながら、「若い時の肖像画なんじゃないか」などと言いながらいつも歓談していました。実は50歳の時の絵だということが分かってきたのですが、手袋製造工から彼は身を起こし、貿易商人として富を残しました。神学校に行っていないので、論敵からは「職人説教師」と蔑まれた信徒にして牧師でもある人物です。

信徒ですので、イングランド産白地物の毛織物は非常に高く売れると知っていたので、オランダに行って貿易をしたかったのです。しかしそれは、マーチャント・アドヴェンチャラーズという手織物輸出貿易商人の組合に入っていないとできないし、組合に入ると入会金がかかるということで、この手袋製造工は、貿易をいったん諦め、オランダでプロテスタントの神学を学び、バプテストの発展に貢献したのです。

帰国後、パティキュラー・バプテスト派の「第1ロンドン告白」(1644年)を起草、発表したのはキッフィンだといわれています。全員信徒なのですが、ロンドン7教会の代表者15名の署名が記載されているのですが、その筆頭署名者はキッフィンでした。1677年に起草され、名誉革命後に発表された「第2ロンドン告白」の筆頭署名者は元国教会牧師のハンサード・ノウルズですが、その信仰告白の2番目の署名者はキッフィンでした。王政復古後の迫害に晒されながらも、名誉革命の寛容法により信教の自由を獲得したパティキュラー・バプテスト派は、全国総会をロンドンで開催しました。国王ウィリアムI世の政府から、ここで初めて非国教徒が認知されます。バプテストは、アングリカンの39箇条の信仰箇条のうち、幼児洗礼と教会統治に関する5箇条に関しては免除され、信教の自由を獲得したのです。

キッフィンは神学論争を通じて信教の自由を獲得したわけではありませんでした。毎週非合法集会であるバプテスト教会で礼拝し、あの手この手を使って、バプテスト教

会が合法化されるように運動しました。非合法集会の廉で逮捕された際には名うての弁護士をつめました。国王が財政的に苦境に陥っていると判断するや、新興貿易商人をはじめとする非国教徒ロンドン市民による王室への資金の貸し出しに乗り出しました。寛容法により、国王と議会は、教会には多様性があるというプロテスタント複数主義を認めさせたのです。

2. William Kiffin の資料集 (全8巻)

CBS が出している資料集、ウィリアム・キッフィン資料集が全8巻、現在7巻まで出版されていますが、これらの資料を読み解くことができたのです。オリジナルである手書き資料（マニュスクリプト）は読み解くのに時間がかかるので、こういうものがあると非常にありがたいのです。キッフィンという人物を信仰告白のパンフレットだけではなくて、初期バプテストの指導者であり、職人から貿易商人となった平信徒牧師の実像が、請願書、国事文書、ロンドン市文書、各種裁判所記録、土地証文、ギルドや貿易会社の記録、納税記録、結婚証明書、遺言書など精力的に収集され解説を施されて刊行されたことの恩恵に預かりました。

これは CBS の功績です。キッフィン資料集の編集者はラリー・クライツァーという、リージェンツの新約学の元チューターで、現在は CBS の出版部マネージャーです。私は、クライツァー氏が CBS 躍進のキー・パーソンだとみています。

3. 近代啓蒙家ジョン・ロックとの関係

私は初期バプテスト史の研究をしましたが、社会経済史が専門です。今回のキッフィン資料集の刊行によって、これまで不問とされてきたジョン・ロックとウィリアム・キッフィンの関係が明るみに出されました。ロックの国家論において、ロックが統治者について述べる際に、どうやら自発的結社をモデルに統治者なるものを構想したのではないかということは、これは以前からいわれてはいました。初期ロックから中期ロックへの転換、すなわち、強圧的で、権威的でない統治論の由来はどこにあるのだろうと、いう問いです。これまで迷ったのですが、私の学部時代の恩師である松下圭一先生も自発的結社説を唱えていたのですが、その由来は分からなかった。

それで今、山田園子さんという私と同世代の第一線のロック研究者は、手書き資料を含めてロックの書いたものを一生懸命読み解いてきたのですが、彼女も分からなかった。実は、ロックとキッフィンというのは微妙な関係でして、たとえ世俗的な付き合いはあったとしても、それから国教会の政策マンであるロックと、非国教徒の牧師が公人として文書を交わすわけがそもそもないのです。発覚したら大変なことにな

ります。ロックはすぐに、政界の大立者であるシャフツベリ卿の政策秘書の地位から追放されます。国教会の教会政策の立案もできません。植民地政策にも従事できません。そういうことで、彼らの関係というのは表立った記述資料やロック書簡集には一切出てこないのです。ところが市民社会というものは、面白いものです。両者の関係は、金銭上のやり取りの帳簿から判明してきました。ロックは地主身分であるジェントリーですからロックが使ったお金というのは、身を寄せているシャフツベリ家の執事によって記帳されています。その帳簿もどれくらい精度があるのかというと、もちろん複式簿記ではありませんが、今日の銀行の通帳のように一応きちんと記載されているのです。その中にキッフィンからの入金と出金の記録があるのです。キッフィンという人物名は、有名な資料集の注記において「シャフツベリ家の家人」と看做されてきましたから、ロック研究者たちは、それが非国教徒の指導者であるキッフィンだと誰も気づかなかったのです。

実は帳簿を通じてロックはキッフィンの東方のシルク貿易に500ポンド投資していることが分かってきました。それからアフリカとの金の貿易、おそらく三角貿易として奴隷貿易が伴ったと判断せざるを得ないのですが、それにもロックは投資しているのです。こういったことは帳簿上分かってきたので、山田さんが目から鱗だと感動していましたが、両者の関係は投資だけにとどまりません。ロックは、ある貴族の家庭教師として大陸旅行に同伴するのですが、その訪問先から、オレンジだのワインだのをキッフィンのところに送り届けているのです。なぜかという、「今度、我々の西インド諸島の植民地開発がうまくいったらこういった商品が作れますよ」、ということキッフィンに知ってもらいたくてロックは大陸からそういった商品を送り届けていたのです。2人の関係はさらに深く、ロックは旅行中、キッフィンからお金を借りているということも、分かってきました。昵懇の仲だったのです。

時系列をたどっていけば、シャフツベリ卿の帳簿にもキッフィンの名前が出てくるのですね。この開明貴族とキッフィンは、「非国教徒の指導者の中では一番親しい」といわれるぐらいキッフィンはシャフツベリ家と関係していました。王政復古後、ロックがシャフツベリ卿の政策秘書としてシャフツベリ家に入った時にロックは思想的に変化しているのです。それ以前は政治上の統治は、「本質的な事柄」として聖書の規律に属するものだという見方をしているのですけれど、それがそうじゃないということ言い始めたのが、実はシャフツベリ家に入り、政策秘書をしてからののです。

シャフツベリ卿の家の中まで分かりませんが、2人がそこで出会って、非国教徒のキッフィンは、実は貿易商人だけども、礼拝は自分たちで行っているという話を交わしたのだと思います。そんなことがあったとは記録には残りませんので、分かりませ

んが、その後も商業上の付き合いをしていたことは事実ですし、バハマ会社、すなわち、植民地開発のための国策会社の理事として会合のためにロックもキッフインの家を訪問しています。

4. 私の成果物

バプテスト教会史だけを研究していたら、名誉革命によりバプテストが良心の自由を獲得した経緯がわからないのです。同様のことはアメリカの歴史の中にもあったと思います。トマス・ジェファーソンというアメリカの大統領とバプテストの関係の中でやりとりがあって、教会と国家の厳格な分離を意味する「パーフェクトセパレーション」という言葉をアメリカの大統領ジェファーソンが合衆国憲法に使った背景には、選挙民であるバプテストとの関係があったからだとということが最近明らかになりました。教会史研究だけでは分からないこと、反面、啓蒙思想史だけでは分からないことがあるのだと思います。その辺のことが明らかにされたのは、大学における教派資料室 CBS の成果なのです。

5. CBS から学ぶべきもの

それで CBS から学ぶことなのですが、大学における教派資料室のメリットを最大限に行使していることではないでしょうか。これは教派団体の資料室では、できないことだと思います。CBS は教派資料のアカデミックな利用、これを促しているということです。それから講演会とかレクチャーを精力的に開催し、有力な運営委員による企画、時代の先端を行くような企画を行っていると思います。女性史、奴隷史などの企画も積極的に進めているので、非国教徒たちが課題としたことについて多方面からアクセスできるような企画を考えているということです。旺盛な学術出版、YouTube、SNS による即座の発信、こういったこともぜひ見てもらいたいと思います。

研究者、サバティカルの牧師という人たちに大学の施設を利用してもらう、研究環境を利用してもらうということを積極的に進めているのだと思います。そういうことがやはり大学の役割だろうと私は考えております。外国からの留学生や研究者、国内の牧師に対して、コレジを挙げて最大限の便宜を提供する、私も研究させてもらいましたけれども、それをさらに全面的に展開してくれるというのが、大学における教派資料室の姿ではないだろうかと思います。

おわりに 西南学院バプテスト資料室へ期待するもの

まとめます。西南学院バプテスト資料室、羨ましいかな西南学院はここまで駒を進

めました。まずは、お祝いの言葉と敬意を表したいと思います。先ほど資料室を見せていただきましたけれども、今日がお披露目の初日だということで、これから皆さんに見てもらい、利用してもらえないのではないかと期待しています。しかしながらこれを現実に進めるといことは大変な作業だと思います。

「死蔵」という言葉がありますけれども、まさに資料を利活用するというのが、西南学院バプテスト資料室の役割だと思います。そのための戦術戦略がないと、歴史は埋もれてしまうのだらうと思います。具体的なプランを運営委員会で打ち出して、実行する、これが大事なことだらうと思います。そのためにはバプテスト連盟、宣教研究所、BWA (Baptist World Alliance)、西南学院大学以外の東京バプテスト神学校、九州バプテスト神学校、それから各個教会と連携しなければならないことだと思います。

福岡という地の利のハンディがあるのでなかなか大変かもしれませんが、せめてサバティカルは福岡でゆっくり過ごしてくださいということで、福岡にサバティカルの誘致することも必要かと思えます。

そして保存利活用に関しては、学術的な水準を求めつつも、今日の教会が直面する問題にも対応できる運営委員会が必要であると思えます。宣教の現場と乖離した資料室とならないためにも、宣教研究所と一体となり、本当に宣教研究所をどうするのかと思えますけれども、大学神学部との連携も必要だと考えます。

牧師のサバティカルの折には、学びなおし、相互学習の機会として、西南学院バプテスト資料室を利用できるように、西南学院は最大限の便宜を図っていただけないかと思えます。図って行くべきではなかろうかと思えます。講演やセミナーの開催、参加者を増やし、「年報」を刊行し、YouTube や SNS の利活用し、多くのユーザーに閲覧してもらおうこと。これらを通じて、バプテスト資料室の役割を果たせるのではないのでしょうか。

以上、長時間にわたって恐縮ですが、私からのお祝いの言葉、講演とさせていただきます。本日は、ご清聴ありがとうございました。(拍手)

<質疑応答>

金丸 (司会) : 大西先生、どうもありがとうございました。大変なお時間を使って準備なさってください、また幅広い熱のこもったご講演をいただいたと思います。実は質疑応答の時間をとっていましたが、予定の時間を少し過ぎておりますので、お1人、あるいは2人まで、どうしても聞きたいことがあるという方はどうぞマイクを回しますので挙手をお願いいたします。

須藤：神学部の須藤でございます。大変示唆に富むご講演ありがとうございました。一つお尋ねしたいのが、最後の方に牧師がサバティカルの時にやってきて、そしてその資料を見て充電をして、勉強してまた牧会の現場に戻っていくと。これ実現したら本当に素晴らしいと思うのですね。今、神学部ではリカレント教育というのを西南学院大学全体としても進めようと議論してまして、その一環で我々研修生、特別研修生という制度はあったのですが、牧師であって半年くらいお休みをしている方、あるいは事情があってやめて次の赴任まで待機している方、そう人に来てもらって勉強してもらいましょうというリカレント研修生という制度をちょうど作ろうとしています。それで伺いたいのは、日本の状況とイギリスのオックスフォードの状況、そこでは全然違うわけですが、牧師が休みを取ってそこに来て、具体的にはどんな感じで過ごすのでしょうか。教えていただくと幸いです。

大西：牧師というのは教会にずっと閉じ込められた状態にあると思います。資料室で過ごすサバティカルの時期にはせめてその状態を脱皮して、広い視野をもち、戦略的に他教会と比較できる余裕というか、それもただじっと話を聞くだけではなくて、組織的に自分たちの教会をどうしたらいいのだろうか、体制的にどうなったらいいのだろうかというところまで踏み込んで、資料にあたることができるなら、素晴らしいと思います。なるほどこの辺りで、目標とする教会はこういう形で流れを変えてきたのだ、あるいは変えることができなかつたのはなぜかを模索して、進むべき教会のモデルをこのバプテスト資料室の各個教会の総会資料から読み取れることができるような、あるいは神学的な切り口で読み解くことができれば面白いと思うのです。日本の教会には、もう100年を超える教会も出てきています。そういう知識の蓄積を捨てていけば、いろいろあると思うのです。ただ単に歴史的な問題だけではなくて、歴史によって方向転換を余儀なくされているのだと思いますけど、牧師や信徒が、自分たちの方で気がきかえられるような、役割を資料室が果たしてもらえれば、いいのではないかなと思うのですが、先生いかがでしょうか。

須藤：大変参考になります。そういうふうな可能性というのは、私自身は考えてなかつたので、これから先へ向けてこれまでのバプテストの日本の諸教会の歩んだ道を見ながら、いいモデルを見つけてさらに発展させていくということですね。参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

金丸：はい、ありがとうございました。ではもうひと方だけに限定させていただいて、何か感想でも結構ですので、ご発言のある方はどうぞ挙手をお願いいたします。

寺園：寺園です。有益な講演ありがとうございました。一つ質問なのですが、

私が以前院長をしていた時に「西南学院史講義」というのを始めまして、全学年共通で選択科目として実施したのですが、東北学院の資料センターの活動として、展示とか講演会がありますが、学生にはどのような講義をするのか。明治学院でもそういうことをやってらっしゃったのですが、東北学院のことを少し教えていただけませんか。

ついでに西南学院の方にもお聞きしたいのですが、「西南学院史講義」ができた当時はとても盛んで学生たちに評判が良く、それ自体は就職試験の時など面接で大いに役立ったということを知ったのですが、徐々に人気なくなって受講生が減りつつあるということを知って心配したのですが、現在はどうでしょうか。

大西：前者の話ですけれども「TG ベーシック」という教養科目に「学院史研究」という科目を設けておいて、今、積極的に進めています。それと先ほど冒頭に紹介しましたように『百年史』は大部な3巻本ですから、あれを小さくした先ほどの三校祖の写真カバーの小冊子『東北学院の歴史』を新入生、新教職員全員に配っておりますので、これをテキストにしながら、資料センターの展示を見学しながらこれから授業を拡大するのではないかと期待しています。今そういう形で準備して進めておりますので、やがてこれが人気科目になるかどうか私にはわかりませんが、スタンバイはできているし、東北学院でそういうことも始まっているのは事実です。

金丸：私も「西南学院史」の運営委員に加わっておりますので、その立場で申し上げますと、実は当初、臨時開講科目であった時からそのステイタスが違って、どういう先生をお呼びするか、どういうことをお話しするかと少しずつ変わっていると思います。一応、運営委員会で話し合っておりますけれども、初期の10年間、最初の先生たちが立ち上げられたみずみずしい時から少しずつ中身が変わってきていると思います。でもやっぱり今年も200人の受講があって、わりと全学年に分散して取っているので少しずつ様相が変わって落ち着きを見せていますけれども、今後どうやって建学の精神を涵養するかというそういう目的にもう少し充実させていけるかというのが課題だと思います。

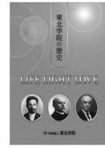
それでは時間がかなり過ぎまして、申し訳ございませんでした。皆さま方には、記念講演会にお越しいただき、誠にありがとうございました。もう少し忌憚のない意見やいろんなことをお聞きしたいと思いましたが、時間もまいりましたので、これもちまして西南学院パプテスト資料室の開室記念講演会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【2023年5月12日（金） 西南学院百年館にて収録】

西南学院バプテスト資料室に期待するもの

・大西晴樹 東北学院院長 大学学長

1



5

はじめに

教派・教団の資料室か？
大学・神学部資料室か？

2

東北学院の沿革



- ・1886 (M19) 年アメリカドイツ改革派教会の支援の下に仙台神学校として設立
- ・1891 東北学院 (North Japan College) と改称
- ・1949 新制大学発足
- ・2023 都心型ワンキャンパス9学部15学科11000人の学生
- ・旧日本基督教会の神学部は、日本神学校と合同後、戦後は文学部キリスト教学科、2011年総合人文学科に改組

6

自由教会制の陥穽

- ・自由教会制をとるプロテスタント教会の資料保存の問題点
 最近な例として、東北学院の宣教師資料の場合

東北学院・宮城学院は、日本最初のプロテスタント教会の信徒であり、日本人教職者となった押川方義とアメリカ・ドイツ改革教会の宣教師によって、1886 (M19) 年に始まる
宣教師の資料は、ペンシルベニア州ランカスター神学校に保存されていたが、ランカスター神学校がモラビア教団に吸収され、資料は、ミズーリ州イーデン神学校に移管されるのではないかと

3

東北学院史資料センターについて

- ・2001 『百年史』編纂の資料等の保存展示のため東北学院資料室発足
- ・2014 東北学院史資料センターに改組 位置づけとしては法人広報部資料室
- ・2023 法人庶務部庶務課に位置付けられ専任の職員1名常駐
- ・2024 『百五十年史』編纂室発足予定



7

第1部 東北学院史資料センター

4

東北学院史資料センターの運営と役割




- ・院長のもとに、おもに大学教授からなる13名の調査研究員による総金が組織され、そこから5-6名の運営委員が選ばれる
- ・主な業務は、「年報」の発行、運営の精神に関連する資料の収集・常設展示、特別展示と見学者への案内、講演会の開催、メディア等間接的関係への対応、歴史的建造物ガイドの作成

8

保存されている教会資料

- ・富城中会記録
- ・東北中会記録
- ・東北教会時報
- ・開羽の光
- ・神と人
- ・*Messenger of the Evangelical and Reformed Church*
- ・*Outlook of Mission-Reformed Church in the US*
- ・押川家寄贈文書
- ・杉山元次郎関係資料



9

大阪府立中央聴覚支援学校『120年史』




13

第II部 資料センターの働き

10

公開講演会・上映会から学んだこと




「ボーイは外国などに行かない方がいいよ・・・日本において幸せの少ない人の為に尽くさなさい」

戦前の国家主義的風潮の中で閉鎖された全国聴覚学校校舎において、聴覚障がい者に目を向けずだけで、盲車を理解させ、発音させる口語法を宣言した山田一徳文藝劇団に、高橋一人が反対し、ヤジの中、子どもにも合った道徳教育として手紙の必要性を説く

戦後は、手話が主流となるが、大阪聴覚学校を拠点にして、高橋校長や指原文字を考案した大曾根運動部長ら東京学園出身者を中心とした教職員が学校づくり「多感性」と「活版」といふ新しい時代を切り開いたことを十分に伝える内容であった。

14

D.B.シュネーダー『基督教教育総合方針』(1917)



- ・われわれの教育の中心的な目標は、政府の教育を補充することによって國に立立つの一翼的でない、すなわち、大體教育で、成功した、有力なキリスト教学校を立ち上げることでもない。またキリスト者の改宗者を得ることでもない。
- ・われわれの中心的な目的と目標は、「確かな人間」(a certain type of man) を作りあげることだけではない。むしろ、どんなタイプの人間を育てようとするのだろうか。これがわれわれの教育政策全体の最も重要な問題であるように思われる。

11

宗教性・適性・多様性の共存

- ・大阪聴覚学校を高橋に紹介したのは、大阪出身で、日本農民組合運動の指導者杉山元治郎(神戸留学)
- ・東北学院からは10名が同校に赴任した。全員がキリスト者ではなかった。
- ・高橋の妻・龍(しゅう)は西本願寺の女性布教師
- ・日暮の天王寺基督教教会土曜学校は、大阪聴覚基督教教会(手話伝道・超教派)に発展



15

高橋潔・大曾根源助

・消極的というならば、風潮に流されたり、人間が置かれた環境に素直に服従しない人間であるべきである。・・・積極的というならば、自らの目的のために真理を尋ねたり、愛したりする人で、その知識は消化されており、記憶された事実の単なる集合体であるよりも現実的なものである。



12

鈴木義男 (1894-1963) 研究



- ・福島県白河町生まれ
- ・父親は白河のメソジスト教会の牧師
- ・東北学院中・高部、二高、東京帝大法科卒
- ・東北帝大教授として軍事教練に反対して退職、法政大学教授
- ・戦中は弁護士
- ・戦後は社会党右派の衆議院議員
- ・憲法制定後、片山内閣の法務大臣

16

誰が憲法に「平和」の文字を刻んだか

- 平和憲法の由来は諸説紛々
マッカーサーか駐留軍のクエイ
カー教徒か？
- GHQ草案には「平和」の文字は
なく、帝国憲法改正案特別委員
小委員会議事録から判明
- 24条の生存権、17条の国家賠償
請求権、40条の刑事補償請
求権も鈴木が発案



17

Centre for Baptist Studies in Oxford



- バプテスト神学校でもあるリージェンツ・
パーク・コレジに設置
- オクスフォード大学は39のコレジと5つの
パーマネントプライベートホールから構成さ
れるが、リージェンツ・パーク・コレジのステ
イタスは、非国教徒による設立として創設
として設立。19世紀半ばは、ロンドン大学の
一部となり、1856年にリージェンツ・パークに移
転。1927年オックスフォードに転移。1957
年にパーマネントプライベートホールとして認
められる
- 20人の神学生以外に、主に文芸社会学を学
ぶ100人程度の学生、50人の院生、20人の留
学生を擁するこじんまりとしたコレジ

21

資料センター主催の講演会からの成果物



- 鈴木は戦前戦中人權派弁護士として、
河上肇、宇野弘成、宮本百合子、
ホーリネス教団の牧師、朝鮮の小説
家李光珠等の弁護
- 13歳からシュノーケラー隊長を頼って
18歳まで東北学院で学ぶ
- 女優志望親子の墮胎事件の弁護で
は、ヨハネ8:7を引用し、後に家畜に
こたえる資金家となる井本台吉牧事
と対立
- 資料センターは2015〜2018まで毎
年講演会を主催

18

Angus Library and Archive



- 15世紀から今日に至るバプテスト史
が非国教徒史に因りて、イギリスや世
界から収集された約7万点の手書き資
料、書籍、パンフレット、日記、教会
や連合の記録、遺物品を所蔵
- 19世紀に神学校の校長であったジョ
ゼフ・アングスの名に由来
- Baptist Union of Great Britain
- Baptist Historical Society
- Baptist Missionary Society
- これらの図書館や資料室と連携

22

第74回キリスト教史学会大会東北学院大会予告

- 2023年9月16日(土)午後3時よ
り鈴木義男の公開シンポジウム
開催予定
- 発題者:仁昌寺正一
- パネリスト:油井大三郎、松谷基
和、靈然祥子
- 五橋新キャンパスにて開催



19

Centre for Baptist Studies の目的



- バプテスト史と神学の研究
- 今日のバプテストの生活と主
張と研究を関連付ける
- アングスライブラリーや他に
所蔵されている資料の掘起し
- サバティカル休暇を含め、牧
会の継続発展への支援
- バプテストの出来事とより広
い世界とを結びつける

23

第三部 イギリスの具体例

20

目的達成のための方策

- 関連領域の学位取得を目的とする研究
者にコレジの構成員資格を付与
- 訪問研究員への研究設備の提供
- 国際的に重要なテーマについての講演
やセミナーの開催、学問的な書物の公
刊
- 著名なバプテスト史家や神学者の国際
的ネットワークを発展させるための有
力な運営委員の任命
- 地域の教会に歴史を記録すること資料
を保管することを奨励



24

著名な運営委員



- John Coffey: レスター大学教授、ピューリタン研究の第一人者
- Michael Haykin: 南部バプテスト神学校の教会史教授、Andrew Fuller Center for Baptist Studies の代表
- Daniel Pratt: 近代牧師制への関心を高めるネットワーク 'Together Free' の代表
- Alison Seale: 17世紀非国教徒女性史の専門家
- Marcolm Yarnell: サウスウエスタンバプテスト神学校教会史家

25

William Kiffinの資料集 (全8巻)

- リージェント・パーク・コレジの新約学の元ディレクターであり、現在CBSの出版支配人を務めるLarry Kreitzerが2010年より、資料集を刊行中
- これまで、初期バプテストの指導者であり、職人、商人であった平信徒牧師の実像が、請願書、国事文書、ロンドン市文書、各種裁判所記録、土地注文、キルトや貿易会社の記録、納税記録、結婚証明書、遺書など手書き資料が精力的に収集され、解説を施されて刊行された



29

旺盛な出版・広報展開

- 旺盛な出版物: Amazonで買えるCBSの刊行物のリストに46点が列挙。講演やセミナーもYouTube、SNSにアップし、書物として公開
- シリーズ物として
 - General Series
 - College Partnership Series
 - Re-Sourcing Baptist History Series
 - Occasional Papers Series
 - Supplementary Volumes



26

近代啓蒙家ジョン・ロックとの関係



- これまで、教会史家からも啓蒙思想家からも無視されてきたキップフィンとロックの関係が悪態の間柄であったことが明らかに
- ロックは大法官シャフツベリ伯の秘書として国教会の宗教政策、植民地政策の立案に従事したが、キップフィンの影響については、無視されてきた

30

第IV部 CBSの成果物：私の場合

私の成果物

- 2016年から2018年まで、3年間夏期休暇はイギリスの資料館やCBSでの調査研究に従事
- 2019年に『海洋貿易とイギリス革命』（法政大学出版局）から刊行
- ロックはキップフィンとの出会いを通じて、個人の「良心の自由」を基盤とする自由教会制の発想を統治論に取り入れ、統治権力を中性化し「労働による所有（労働価値説）」を主張



31

William Kiffin or Kiffin(c 1616-1701)



- 手袋製造工—新興貿易商人
- 「職人説教師」（平信徒説教師）、バプティキュラー・バプテスト教会牧師、非国教徒指導者
- 第一ロンドン告白（1644）筆頭署名者、第二ロンドン告白（1677）
- 迫害に晒されながら、名譽革命による「寛政法」（1689）の際に、バプティキュラー・バプテスト派全国総会をロンドンで開催

28

CBSから学ぶべきもの



- 大学における教派資料室のモデルとして最大限に行使
- 教派資料のアカデミックな利用
- 講演、レクチャーの開催と有力な運営委員による企画
- 旺盛な学術出版、YouTube、SNSによる即座の発信
- 研究者、サバティカルの牧師、外国人留学生にコレジを挙げて最大限の便宜を提供

32

おわりに

西南学院バプテスト資料室へ期待するもの

33

- ・キリスト教学校の年史編纂のための資料室から一歩踏み出すことへの敬意
- ・しかし、現実には、どのように資料を収集し、保存し、利活用に供するかの？ 具体的プランの構築が必要
- ・日本バプテスト連盟、WBC、他の神学校、各個教会と連携しなければ、資料の収集、利活用は困難ではないだろうか？
- ・保存、利活用に関しては、大学のノウハウを行使し、学術的な水準を求めつつも、現在教会が直面する問題にも対応できる運営委員会が必要
- ・教派、教会と乖離した資料室とならないために、宣教研究所と一体となり、牧師がサブディレクターの座に、リズデリアル、リスキリングの場として西南学院バプテスト資料室を利用できるように、西南学院は最大限の便宜を図るべき
- ・講演やセミナーの開催。参加者を増やし、年報を刊行し、YouTube、SNSを利用し、多くのユーザーに閲覧してもらおう

34